

バレイショ収量調査結果

7月28日

区名	コンテナ	kg	畝2(コンテナ込)	畝4(コンテナ込)	畝2(正味kg)	畝4(正味kg)	合計(kg)	1000㎡当りkg
無肥料区	2		12.7	8.8	10.7	6.8	17.5	2692
化学肥料区	2		12.9	12.3	10.9	10.3	21.2	3262
パールユークのみ区	2		15.4	11.7	13.4	9.7	23.1	3554
パールユーク+PK区	2		13.8	11.7	11.8	9.7	21.5	3308

バレイショ収量調査結果

8月4日

区名	コンテナ	kg	畝3(コンテナ込)	畝5(コンテナ込)	畝3(正味kg)	畝5(正味kg)	合計(kg)	1000㎡当りkg
無肥料区	2		11	9.9	9	7.9	16.9	2600
化学肥料区	2		13.9	14.4	11.9	12.4	24.3	3738
パールユークのみ区	2		13	11.9	11	9.9	20.9	3215
パールユーク+PK区	2		13.6	14.4	11.6	12.4	24	3692

バレイショ収量調査結果

9月19日

区名	コンテナ	kg	畝1(コンテナ込)	畝6(コンテナ込)	畝1(正味kg)	畝6(正味kg)	合計(kg)	1000㎡当りkg
無肥料区	2		10.5	8.5	8.5	6.5	15	2308
化学肥料区	2		16.7	20.1	14.7	18.1	32.8	5046
パールユークのみ区	2		10.1	16.9	8.1	14.9	23	3538
パールユーク+PK区	2		17	16.2	15	14.2	29.2	4492

バレイショの品種:メークイーン

1区の面積: 3.9 m x 5.0 m = 19.5 ㎡

1区6畝

2畝分の収量だから、6畝分に換算するには3倍すればよい。

1000平方メートル当りに換算するには、さらに1000/19.5を掛ける。

リン酸とカリを補給しなかったにもかかわらず、パールユークのみ施用した区で慣行化学肥料区に劣らない収量が得られた。

6月23日時点での地上部の生育は、化学肥料区やパールユーク+PK区よりも劣っていたが、イモの生育には影響しなかったようだ。

化学肥料区に対する無肥料区の収量の割合は、7月28日に83%、8月4日に69%、9月19日に46%となった。

「化学肥料区」および「パールユーク+PK区」では、収穫日があとになるほど収量が増大していた。8月中もイモの肥大が続いていたことを示している。

「無肥料区」および「パールユーク単独区」では、7月28日以降の収量が増加していなかった。

「無肥料区」および「パールユーク単独区」では、養分不足のため、8月以降のイモの肥大がほとんどなかったものと考えられる。

イモの大きさは化学肥料区が最も大きく、パールユークを使用した区では化学肥料区よりも小さく、無肥料区では最も小さかった。

パールユーク単独区の畝1では、発芽前の畝立て時にハンドトラクターが畝の上を誤って走行したため、収量が低下したと思われる。

従って、9月19日のパールユーク単独区の収量は、実際にはもう少し大きかった可能性がある。

バレイショ収量

1000㎡当りkg

区名	7月28日	8月4日	9月19日
無肥料区	2692	2600	2308
化学肥料区	3262	3738	5046
パールユークのみ区	3554	3215	3538
パールユーク+PK区	3308	3692	4492

